

## 赤羽東地区教育環境整備協議会（会議の概要）

### **（仮称）赤羽東地区ブロック協議会（第1回）**

■平成15年8月21日

■赤羽会館 研修室

#### ■次第■

1. あいさつ
2. 学校適正規模等審議会答申報告
3. （仮称）ブロック協議会の基本的な考え方
4. 赤羽東地区の現状
5. 今後の運営について

### **赤羽東地区教育環境整備協議会・幹事会（第1回）**

■平成15年10月21日

■神谷区民センター

#### ■次第■

1. あいさつ
2. （仮称）ブロック協議会設置要綱について
3. 座長選出
4. 幹事会の進め方について

#### ■発言要旨■

#### ○協議会設置要綱について

- 会の名称を「赤羽東地区教育環境整備協議会」とする。
- 文言等の修正はなく、了承された。

## ○座長選出

- 座長は、互選により志茂五水門自治会会長・荒木麟太氏となる。

## ○幹事会の進め方について

- 幹事会をやむを得ず欠席する場合には、協議会の委員の中から代理の出席を認める。なお、協議会は代理の出席を認めない。
- 傍聴者によるテープ録音やビデオ撮影は認めない。なお、事務局では記録のため録音しているので、希望があればテープの貸し出しが可能である。
- 会議録は、発言要旨として事務局がまとめ、内容の確認は座長にお願いする。
- 幹事会の次回日程は、会の中で3つ程度の候補日を示して調整をはかることとする。
- 協議会、幹事会ともに7時から開始を原則とする。
- 学校長の人事異動や自治会長の改選があった時は、幹事も交代する。PTAの場合は、各校ごとの事情もあるので後日調整する。
- 教育委員会は事務局として参加する。区としての立場や情報は会議の中で示していく。会のメンバーでないからといって、結論に責任を持たない訳ではない。幹事会を進めていく中で、教育委員会の位置付けについて見直しが必要となればその時に検討する。
- 区から3校を2校にしたいなどの案を示して、その案について議論する方が良い。
- 区としてのビジョンを出して欲しい。北区の教育のあり方を示さないまま、議論をしても禍根を残すこととなる。また、例えば小中一貫校を望むブロックや自由選択を望むブロックなどブロックごとにバラバラの結論が出ることになる。
- 会議の日程をできる限り広く周知して欲しい。→事会日程を協議会の委員に知らせる。
- 委員以外の出席が必要な場合は、事前に幹事会に諮る。
- これは、学校を減らすだけの話し合いではない。まちづくりの話である。
- 他ブロックの話し合いの内容を知らせて欲しい。また、他の自治体の先進事例を視察するのもよいと思う。
- 学校改築に関する財政的な資料を提供して欲しい。→他区の事例として2校程度の具体例を提出する。
- 15年度末、16年度末までの会議進行のフローチャートを次回示して欲しい。
- 傍聴者に資料の配布又は貸与については、事務局で前向きに検討する。

## 赤羽東地区教育環境整備協議会・幹事会(第1回)

■平成15年10月21日

■神谷区民センター

■次第■

1. あいさつ
2. (仮称)ブロック協議会設置要綱について
3. 座長選出
4. 幹事会の進め方について

■発言要旨■

○協議会設置要綱について

- ・ 会の名称を「赤羽東地区教育環境整備協議会」とする。
- ・ 文言等の修正はなく、了承された。

○座長選出

- ・ 座長は、互選により志茂五水門自治会会長・荒木麟太氏となる。

○幹事会の進め方について

- ・ 幹事会をやむを得ず欠席する場合には、協議会の委員の中から代理の出席を認める。なお、協議会は代理の出席を認めない。
- ・ 傍聴者によるテープ録音やビデオ撮影は認めない。なお、事務局では記録のため録音しているため、希望があればテープの貸し出しが可能である。
- ・ 会議録は、発言要旨として事務局がまとめ、内容の確認は座長にお願いする。
- ・ 幹事会の次回日程は、会の中で3つ程度の候補日を示して調整をはかることとする。
- ・ 協議会、幹事会ともに7時から開始を原則とする。
- ・ 学校長の人事異動や自治会長の改選があった時は、幹事も交代する。PTAの場合は、各校ごとの事情もあるので後日調整する。
- ・ 教育委員会は事務局として参加する。区としての立場や情報は会議の中で示していく。会のメンバーでないからといって、結論に責任を持たない訳ではない。幹事会を進めていく中で、教育委員会の位置付けについて見直しが必要となればその時に検討する。
- ・ 区から3校を2校にしたいなどの案を示して、その案について議論する方が良い。

- 区としてのビジョンを出して欲しい。北区の教育のあり方を示さないまま、議論をしても禍根を残すこととなる。また、例えば小中一貫校を望むブロックや自由選択を望むブロックなどブロックごとにバラバラの結論が出ることになる。
- 会議の日程をできる限り広く周知して欲しい。→事会日程を協議会の委員に知らせる。
- 委員以外の出席が必要な場合は、事前に幹事会に諮る。
- これは、学校を減らすだけの話し合いではない。まちづくりの話である。
- 他ブロックの話し合いの内容を知らせて欲しい。また、他の自治体の先進事例を視察するのもよいと思う。
- 学校改築に関する財政的な資料を提供して欲しい。→他区の事例として2校程度の具体例を提出する。
- 15年度末、16年度末までの会議進行のフローチャートを次回示して欲しい。
- 傍聴者に資料の配布又は貸与については、事務局で前向きに検討する。

## 赤羽東地区教育環境整備協議会・幹事会(第2回)

■平成15年12月16日

■赤羽会館研修室

■次第■

1. あいさつ
2. 第1回幹事会のまとめ
3. 今後の検討に向けて
4. その他

■発言要旨■

- 1校案か2校案かを検討している地区もあるが、両方の案を平行して考えるのが良いと思う。
- 既存の校舎で考えるのか、新築で考えるのか。
- (事務局)答申では、適正配置にあたっては施設を含めて新しい学校とすることが求められている。また、区立学校は校舎改築の時期を迎えているので、あわせて考えることになる。
- 中学校の現状や地域性など数合わせだけでは語れない部分を含めて議論していきたい。区では学校改築のための基金を準備していると聞いている。その見通しについて尋ねたい。

- (事務局)適正配置は区内全域で検討をすすめており、一度に全部を改築することはできない。財政的制約もあるので計画化していく必要があるが、協議会で話がまとまった地区の優先順位は高くなると思う。
- 1校案とするならば、新たな敷地に新しい校舎を建設する必要があると考える。
- (事務局)1校案で想定された学級数は、既存校舎でも不可能ではないが、教室数の確保などは厳しい。
- 改築に優先順位があると、統合から改築までに時間がかかる場合も考えられる。その場合に改築まで統合はしないということもあるのか。
- (事務局)地域としてどうしたらよいかを話し合っていたきたい。
- 小規模校と大規模校のメリットとデメリットは、他地区でも検討されているようなので事務局から資料提供して欲しい。
- 結果的には、1校か2校かということになると思うので、それぞれのメリット・デメリットを検討していけばよいのではないか。
- 1校案、2校案ともに通学区域が広くなり子どもたちの安全も考えていかなければならない。
- 2校案とした場合、ブロック内の2校を特色によってどちらの学校を選択しても良いとすることは可能か。
- (事務局)北区では学校選択制を導入していないので、議論の前提とすることはできない。ただし、統合の時に限って就学校を選べるようにしてきた。
- 学校選択制はないといっても、現実には、違う学校に行っている人が多い。1校か2校かを考えたところで、指定された学校にどれだけの人が通うのかが問題である。
- (事務局)文科省からの指導もあり、指定校変更制度は弾力的に運用している。その基準も公開されている。なお、児童生徒数の推計値は指定校変更による変動を加味したものとなっている。
- 学校の実験制なども含めた議論ができれば、この会議が面白いものになっていくと思う。でなければ単に数合わせのための会議になってしまうのではないか。
- 神谷小は赤羽東ブロックの端にあたるので、隣りの王子ブロックの経過が気になっている。また、学校ファミリーでの中学校との関係もある。学校ファミリーが浸透した後に、中学校の環境を考えるべきではなかったかと思っている。
- ファミリーや学校選択制なども見守らなければならないが、今は既定の中で考えた方がわかりやすい。
- 小さくなった中学校が、このままでやっていけるのか。感受性の強い時期に限られた人間関係の中で過ごしてよいのか。色々な教員との触れ合いや多様な授業展開をするためには生徒数の確保が必要となる。
- 1校案とするには、それに見合う施設をつくるのが条件となる。そうでないと授業は組めない。既存の校舎ではパンクしてしまう。
- 今の学校が大きい小さいではなく、将来の子どもたちの教育環境を考えた場合、再編成が必要ではないかと思う。校長会でも同じ考えである。

- 難しい問題だと思う。行政の効率性から考えればよいとはいえないが、授業面では効率だけを考えることはできない。今求められる教育を100%できるようにするためにどうしたらよいかを考えなければならない。
- 小規模校には、教員のストレスがない、個性に応じた指導が出来る、教員の管理が容易であるなどの良さがあるが、経済効率的には無駄がある。大規模校では、校内暴力、学校間抗争、暴走族問題などがあつた。1校案は現実的には無理があるのではないか。新しい教育に対応するには、新しい校舎と新しい教育課程が必要である。施設的な教育環境は私立学校が優れているが、内容で公立学校が劣ることはない。まずは、時代に合った校舎づくりが必要である。
- 2校案の場合、統合とならない学校はどのような扱いになるのか。
- (事務局)何らかの対応は必要である。限られた財政事情の中では改築の優先順位はかなり遅れてしまうだろう。地域の教育環境を改善するために大規模改修などの働きかけはしていきたい。
- 学校を複合施設とすることで補助金が増えることがあるのか。
- (事務局)補助金には色々なものがある。学校単独の施設でも地域開放型にすることで補助金がプラスになる。複合施設では、原則として学校部分とその他部分とそれぞれ補助金を算出することになる。建設費自体が増えることも考えなければいけない。複合化したことでの補助金があるかは不明だが、あっても多くはないと思う。
- 区は、公立学校はこうあるべきだというビジョンをたたき台として示して欲しい。私立への進学が増えているのは、施設だけではない。教育目標やビジョン、一人ひとりへの手間隙のかけ方のレベルが違うからだ。もっと研究して示して欲しい。
- (事務局)これまでの公教育離れは、都立高校の凋落も背景にあるのではないか。都では都立高校改革が動き出している。区でも保護者の期待に応えるため、検討を進めているところである。また、学校とも協力しながら努力していきたい。

### **赤羽東地区教育環境整備協議会・幹事会(第3回)**

■平成16年1月29日

■赤羽会館第2集会室

■次第■

1. あいさつ
2. 第2回幹事会のまとめ
3. 1校案及び2校案の比較検討について
4. その他

## ■発言要旨■(1校案及び2校案の比較検討について)

- 通学区域変更は可能か。
- (事務局発言)検討の前提が変わってしまうので、現行の通学区域をもとに考える。
- 既存校の位置を前提に考えるのか。新しい敷地は考えないのか。
- (事務局発言)既存の敷地で考える。
- 1校案で既存の敷地で可能か。
- (事務局発言)校舎の容積率では問題は無い。ただし、運動場の広さは少し難しい面があるが、都心区ではどこも同じである。
- 通学路に関しては、1校でも2校でもそれぞれにメリット・デメリットがあり議論にならない。
- 3校案もまだ選択肢にある。
- 子どもたちにどのような条件を提示できるか、これからの中学校像を描く必要がある。
- 違う場所に建設するのがよい。
- (事務局発言)新たな敷地について提案があれば承る。活用の可能性について調べて説明していきたい。
- 企業の移転により敷地ができる。人口の変動もある。慎重に結論を出すべきである。
- 数だけの問題ではない。子どもの状況や特性をふまえた中身の議論が必要である。
- 協議会について教育委員会のPRが不足している。中学校では話題になっていない。
- 保護者でも協議会のことが話題になるが、誤解を招いている面もある。保護者への情報提供のあり方を考えなければならない。
- (事務局発言)PTAから要望あれば説明に伺う。協議会で確認されたことは協議会だよりとして全児童生徒を通じて保護者に配布するとともに町会自治会へ回覧を行う。
- 1校案は無理ではないか。新しい敷地に1校を建てるかたちで3校を2校とするのがよいのではないか。
- 子どもたちのためにどうあるべきか。子どもたちがどう考えるのか。将来を見通して着実に進めていきたい。1校案は無理だと思う。
- 1校よりは2校のほうがよい。これから中学校に進学する方の意見を聞いて欲しい。
- 今の学校の状況では、学習プログラムなど対応できていない。子どもたちがかわいそうである。統廃合は再編成である。北区全体にバランスよく学校を配置することである。
- すぐに結論のでる問題ではないが、具体的な方向にもっていかないといけない。
- どういう学校をつくりたいかを考えることが大事だ。小規模校でもよいのではないか。アットホームな良さがある。自由選択制と特色ある学校づくりが必要である。
- 少人数の方がきめ細かい対応が可能と考えるが、最小適正規模はどの程度になるか。
- 1学年4~6クラスあると教員のバランスがよい。1~2クラスでは、教員と生徒の人間関係でしっくりいかない場合があったり、教員が子どもに返すべきものを培うのが難しくなる。また、子どもはいずれ広い世界に出て行かなければならないのだから、ある程度の集団の中で生活することが必要ではないか。
- クラス数は必要だが、1クラスの人数は少ないほうがきめ細かい対応ができる。統合したためにクラスの人数だけが増えてしまうこともある。そのような場合には人的配置を含めて配慮が必要ではないか。

- (事務局発言)統合の際には、統合加配の教員が配置されたほか区費で非常勤を配置し人的配置を行った。
- 1校減ることによりどれだけの予算の効率化がはかれるのか。
- (事務局発言)学校ごとに格差があるが、教員の人件費を除き1校あたりほぼ1億円と考えてよいと思う。
- 予算があって事業計画を考えることができる。区は予算の面をきちんと提示して欲しい。
- 地区の学校をどういう形態でやっていくのか、どういう教育をしていくのか区が示すことが大切だ。
- (事務局発言)区として目指す学校は北区教育目標のなかで総括的に示される。新年度のものもがまもなく確定するのでお知らせしていく。地域ごとに目指すべき学校像を具体的に示すものはない。答申では、中学校は小さくなったから統合するのではなく、よりダイナミックな活動を求めて積極的に検討することが求められている。

## 赤羽東地区教育環境整備協議会(第2回)

■平成16年3月12日

■赤羽文化センター視聴覚室

■次第■

1. あいさつ
2. 経過報告
3. その他

■発言要旨■

- 企業移転後の土地を取得する場合の予算はあるのか。
- (事務局発言) そのような土地が生じるかわからないので予算の確保はしていない。建て替え費用に土地の取得費用が加わると予算的には厳しい。統合により空いた土地を有効活用し資金をつくることも考える必要がある。
- 中高一貫教育についてどう考えているのか。
- (事務局発言) この協議会は、高校を含んだ議論はしていない。
- これは、統廃合の問題を考えるための会議であるのか。
- (事務局発言) 子どもが少なくなりこのままでよいのか。子どもにとって地域にとってどのような形が望ましいのか考えていただきたい。なお、こうした協議会は、北区を8ブロックに分けて全域で開催している。
- 児童数100人以下が数年続いた場合に統合になると聞いた。

- (事務局発言) 児童数100人以下が数年続いた場合に統合になるという基準は設けていない。
- 中学校の問題だけを考えるのか。
- (事務局発言) まずは中学校を考えていただく。中学校とあわせて考えた方がよい場合は小学校も含めて考える。また、小学校では2学年連続で10人を下回った場合は、教育委員会として座視できない状況と考える。
- 8ブロックの中で優先順位はあるのか。また、学校改築は何年間隔で行うことができるのか。
- (事務局発言) 協議会は16年度末を一定の区切りとしているが、すべてのブロックで結論が出ないかもしれない。そのため、結論の出たブロックを優先せざるを得ないと考えている。さらに、その中でも地域の状況や校舎の老朽度などを考慮して決めていく。来年度策定を予定している学校改築計画の中で、何年度までに何校改築という形で示されることになると思う。
- 現時点では横並びの状況か。
- (事務局発言) 話し合いの状況は横並びではない。
- この地区の中学校を1校か2校にしなければならないのか。数だけを考えるのではなく、どんな学校が良いか中身を考えて前向きな議論をしていきたい。
- (事務局発言) 総合的にみてある程度の学校規模が必要なことは多くの方が理解している。また予算効率の面から全ての学校を建て替えるのは難しいことから、統合は欠かせない視点である。
- 赤羽東地区全体の生徒数は。
- (事務局発言) 平成20年度推計で842名が773名となり、若干減少傾向がある。
- 1校あたりの生徒数はどのぐらいになるのか。
- (事務局発言) 1校案では、平成20年度の推計で21クラスとなる。2校案は組み合わせにより色々である。
- 教育委員会が示した教育目標は漠然としている。学校・家庭・地域・教育委員会で細かい部分を考えていかなければいけない。今日は委員の出席が少ないが、責任をもって出席してもらいたい。ブロックごとに優先順位があるのは仕方ないが、予算がなくてできないということがないようにしてほしい。
- (事務局発言) 統合により空いた土地を売却することも含めて予算の確保に努めたい。
- 協議会の委員も含めてアンケートを実施したほうが良い。
- (事務局発言) 内容や対象範囲を含めてどのように実施するかは、今後、議論いただきたい。
- (事務局発言) 次回の日程は、PTA会長の改選などもあり、座長と相談して決めさせていただきます。

## 赤羽東地区教育環境整備協議会・幹事会(第4回)

■平成16年6月21日

■赤羽会館第2集会室

■次第■

1. あいさつ
2. 委員自己紹介
3. 望ましい学校数について
4. その他

■発言要旨■

- 大日本印刷が赤羽警察横へ新設する工場は、18年1月稼働とのこと。現在の工場も当面無くなるということではないようなので、この協議会の検討には影響はない。
- 行政側が基本姿勢を示すべきである。この協議会で練った案が、最終的に行政主導でひっくり返されないか。心配である。
- (事務局発言) 事務局としては基本案や腹案はない。むしろこの協議会で示された一定の方向をもとにして検討していきたい。
- 3点述べたい。1点目としてこの問題については、ブロック単位で考えるべきものか、区全体として考えるべきものか。2点目として、平成30年までの北区の児童数の推移を知りたい。3点目として、1校案、2校案にかかわらず、適正規模を考えた場合、あまりに大規模すぎても良くないと思う。4~6クラスが適当ではないか。
- (事務局発言) まず1点目については、学校適正規模等審議会第2次答申にもとづきブロックに分けて協議している。2点目については、現在把握している範囲で次回お示ししたい。3点目については他の地区からも、クラスは偶数の方が良いという意見をいただいている。7クラスでは大きすぎて施設利用で重なりがでるという意見もある。
- 3月に全体会があったが、会自体がマンネリ化しているようだ。ただ議論を重ねても行政側の方向性が決まってないから、話しが堂々巡りになってしまう。他の地区では桜中と王中が統合するという話しも出ているようだ。赤羽東地区も今年度中なるべく早くに方向を決めて中身の議論をしたい。
- 校舎の老朽化の問題も含めて8ブロックの中で改築をもっとも優先されるのはどこの学校か。
- (事務局発言) 中学校について建築年度の古い順ということであれば、王中、稻中、岩中、赤中の順である。
- 耐震工事をしていない学校については、工事をしても強度が出ないからやらないのか、統合するからあえてやらないのか。

- (事務局発言) 耐震補強には、国庫補助金が出るが、補助を受けてから10年という縛りがある。耐震工事をしたがすぐに統合するということになると、国庫補助を返還することになってしまう。よってやはり適正配置の方向を見極めたい。
- 事務局には各地区の協議会の進捗状況を、各学校に説明してもらいたい。そのうえで各校から意見を吸い上げて、この会で示してほしい。
- (事務局発言) 各学校での説明と意見の吸い上げについては、全体会で一定の方向が見いだされたものは、要請があれば各学校に経過を説明に伺う。
- 1校案も2校案も新しい学校を1校つくるといふことと解釈できるが、2校案の場合まったく新しい学校を2校つくって、行きたい学校を子どもに選ばせてはどうか。
- (事務局発言) 確かに財政的には厳しいが、1校しかつukらないということが前提となっているわけではない。
- 北区の予算面から考えると、1校分の予算しかないのではないか。しかも今学校をつくと決断しても、完成するまでに6~7年かかるのではないか。予算が無いというだけでなく、発想を転換すべきだ。学校建設資金のための区債を発行するか、廃校の土地を売却して資金をつくってはどうか
- (事務局発言) 場合によっては空いた学校用地を売却していかなくてはいけないと考えている。
- 学校と福祉施設を併合するというような、複合的施設としての学校は想定しているか。
- (事務局発言) 学校を含めての複合施設化は、区全体の施設配置計画と関わってくる。
- 議論は自由にとりつつ、実現できるかどうかわかりませんよでは、議論が上滑りする。
- 統合しなかった学校の改築はどうなるのか。
- (事務局発言) 統合校を優先せざるをえない。
- 前向きに話しあっていくためにも2校案中心で議論していきたい。
- 何校にするか決める前に、現場の意見を聞くべきだ。学校関係者や地域に対してアンケートをとるべきだ。
- 今すぐアンケートをとるのではなく、2校案ならこうなる、というように具体的な形にしてから、協議会としてアンケートを実施した方がよい。
- 学校に対して意識も関心もない人が多い。そんな人々にアンケートしても意味がない。
- アンケートが必要だと思う学校は、それぞれが自分で行えばよい。協議会では議論し、早く一定の方向にまとめて、それを多くの人に示して意見をもらうべきだ。
- (事務局発言) アンケートについては、今後さらにご検討願いたい。今日のまとめとして、今後は2校案を中心に議論を深めて行き、場合によっては1校案・3校案に戻って考え直すこともありうることとしてよろしいか。

## 赤羽東地区教育環境整備協議会・幹事会(第5回)

■平成16年6月21日

■赤羽会館第2集会室

■次第■

1. あいさつ
2. 委員自己紹介
3. 望ましい学校数について
4. その他

■発言要旨■

- 当地区の議論の前に、王子地区の進行状況について説明願いたい。桜田中と王子中、桜田小と王子小の統合が決定し、17年4月からの実施と聞いているが。
- (事務局発言) 王子地区においても、まず望ましい学校数から議論した。結果、中学校は1校と決定した。その際桜田小学校の児童数の減少が激しいということから、初めて小学校が協議会の俎上にあがった。議論が急速に進み、望ましい学校数は中学校1、小学校2、統合校の位置については小学校は王子小の位置、中学校は王子中の位置と決まった。実施時期は平成17年4月と決まった。現在は望ましい学校像について議論しているところである。
- 桜田中、王子中の統合後の位置については、敷地の広さ、校舎の大きさについても考慮したのか。
- (事務局発言) 敷地の広さ、形状、校舎の大きさについても考慮した。
- 確認だが、この協議会での説明では基本的に統合校は改築することになっていたと思う。改築期間には数年を要すると思われるが、来年度は王子中の校舎を使用するのか。
- (事務局発言) もちろん統合校は改築するべきと考えている。17年4月以降は桜田中の校舎でスタートする。統合新校の位置は王子小と王子中の位置になる。
- 確実に改築するかどうかわからないということか。
- (事務局発言) 基本的には改築にしたいと考えているので、当面は桜田校舎を使う予定である。
- 17年4月からは、桜田中で統合校としてスタートし、その間に王子小、王子中の位置に新校舎をつくると、桜田中の保護者から聞いているが。
- (事務局発言) 予算の問題があるので、今の段階で確実に改築するとは言い切れない。9月の議会が終われば説明できると思う。
- 資料の人口予測を見ると、2校案が適切かと思うが、資料中のABC案を見てみると、どの学校を使用しても、生徒数に対して規模が小さいように思える。ならばABC案にとらわれ

ず、全く新しい2校をつくってはどうか。学校用地はあとから考えても良いのではないか。新校ができるまでは今の3校のどこかを使ってはどうか。

- 人口予測のグラフは学区域と同一ではないとのことだが、行政上の区分なのか。
- (事務局発言) 住民基本台帳の数字がベースである。
- この数は公立小中学校に通う児童生徒数だけではないのか。
- (事務局発言) 私立や区外の小・中学校に通う児童生徒もすべて含んでいる。
- 新しい学校をつくらない場合は、ABC3案の内のどれかを採用して2校にするものと思うが、A案(1)の生徒数604人は教室に入りきるのか。
- (事務局発言) 目安としては、普通教室19、特別教室15の計34教室が必要と考えている。現在赤羽中には、普通教室24、特別教室10の計34教室があるので、なんとか間に合うと思う。
- どの案を採用しても、その学校に在籍する生徒・保護者に負担がかかると思う。一番心配なのは、生徒が公立から私立に流れてしまうこと。王子小・中の改築にしても5~7年かかるのではないか。すると8ブロックすべて終わるのに何十年かかるのか。北区の子どもたちのために、どういう学校をつくれるかを議論したい。学校数は1校でも2校でも3校でもかまわないと考えている。
- (事務局発言) 王子小・中の改築については4年とみている。8ブロックすべてについても、地区での意見が一致し、ご協力いただければ、区としても全力を尽くすつもりなので、何十年もかかるとは考えていない。また活力ある学校づくりのためには、ある程度の規模の学校をつくる必要不可欠であるというのが学校適正規模等審議会の考えである。よって子どもたちのためには、現状のままで良いとは考えていない。
- C案は理論上はありうるが、実際は神谷中がなくなるということだと思う。神谷中に通学している範囲の生徒が、岩淵中に通うということはあると思うが。
- 望ましいクラス数は3~5という考えからすると、A案の神谷中の2クラスは適正ではない。するとB案しか残らない。いっそのこと全く新しい2校をつくるべきではないか。ABC案しかないのがおかしい。
- 全く新しい2校をつくるのは可能か。その間の在校生の居場所等の問題はあと思うが。
- (事務局発言) 現在の学校敷地を使用しないでつくるなら可能かもしれない。現在の学校敷地を使用して2校つくるとすると、ドミノ方式が考えられる。例えばB案の位置で考えた場合、神谷中の生徒が赤羽中でいっしょに学んでいる期間に、神谷中の位置に統合新校Aをつくる。神谷中と赤羽中の生徒が統合新校Aで学んでいる期間に、岩淵中の生徒は赤羽中の校舎を使用し、岩淵中の位置に統合新校Bをつくるという方法が考えられる。
- A案の場合、神谷中は統合校と呼ぶのか。
- (事務局発言) この場合、神谷中は統合校という認識はない。
- そういう話しになると、地域から大反対が出る。全部一回幕を引くべきだ。それから全く新しい校名で学校をつくるべきだ。
- 資料を見るとB案以外に無いとおもうが、その場合でもやはり一度幕を引き、校名をかえるべきだと思う。
- その場合は、赤羽中+神谷中も統合校、岩淵中も統合校と呼べると思う。
- そのような場合、2校のどちらに通うかは、通学区域に縛られずに選べるのか。

- (事務局発言) 赤羽東地区だけどちらでも好きな学校に通えるというわけにはいかない。
- それは条例で決まっているのか。
- (事務局発言) 教育委員会で決定している。
- 実際は通学区域外の学校に通っている生徒がいる。例えばカリキュラム制にすればどの学校にでも通えるのではないか。
- 通学区域は必要だと思う。親の目から見て安全だと思う。
- (事務局発言) 学区域の問題には北区として一定のルールがある。特定の地区だけ学区域自由というのは説明しにくい部分がある。学区域について何らかの形で自由選択制をとり入れているのは、23区中19～20区あるが、現時点での学区域の自由選択は、北区においては難しい。
- 先程の話しに戻るが、統合されないで残る1校は統合校ではないという認識は、我々の認識とは異なるがいかがなものか。

(この意見について座長による確認が行われ、出席者全員の意見が同様であることが確認された。)

- 具体的に2校にした場合のことを論議したい。資料によると平成20年に中学生が901人になるとある。ABC案を見ると現在の全中学の生徒は756人である。仮に新校2校に均等に分けると1校当たり378人となる。仮に12クラスつくるとすると1クラス約30人になるが、それでは40人学級という規準に満たない。平成20年においても40人学級にならない。しかし1校だと生徒数が多すぎる。そのような問題も考慮して考えていくべきだ。
- 40人学級という基準は何によっているのか。
- (事務局発言) 都の学級編成基準によっている。
- 少数精鋭という観点からすれば、40人より30人の方が良いと思う。区にはそこまで踏み込んで変えていってもらいたい。
- (事務局発言) 今日の協議会においては、この地域にとって望ましい学校を考えた場合、当然3校が1校にまとまったほうが最善ではあるが、その用地が確保できない。次善の策として、いったん3校を閉じて2校の新校をスタートさせるという話であったかと思う。また都の学級編成規準で40人学級が望ましいとされている以上、北区としても40人学級を規準に考えていきたい。指定校変更・学区域の問題については、全く自由だという印象があるようだが、基本的には基準があるということをご理解いただきたい。
- 新校用の広い敷地がなければ、上に伸ばしたらどうか。たとえば10階建て校舎というのはつけれないものか。
- (事務局発言) 用途地域等の制限があるので、限界がある。
- 道路計画の関係で赤羽中のプールがなくなると聞いているが事実か。
- (事務局発言) 確認して次回お答えしたい。
- 今後の事業計画について責任ある発言のできる人を連れてきて、長期的な展望について説明してほしい。
- (事務局発言) 現在区では基本計画を策定中であり、年末に案を議会に示す予定である。よって年末になればこの先10年間の考え方についてお示しできると思う。

- 協議会で議論を重ねて、一定の方向を決めた後で基本計画が出来るのはおかしな話だと思う。
- (事務局発言) そのような意見は当然かとも思うが、区は計画行政である以上、一定の踏むべき手順があることもご理解いただきたい。
- 協議会では我々の想いを述べているのであって、行政を拘束しようとしているわけではない。しかし我々の意見はとりいれてほしい。
- (事務局発言) 文教委員会では各地区の協議会の内容を報告している。よって北区の基本計画の中に協議会で出された意見が反映されるものとお考えいただきたい。

## 赤羽東地区教育環境整備協議会・幹事会(第6回)

■平成16年10月26日

■赤羽会館第2集会室

■次第■

1. あいさつ
2. 第5回幹事会のまとめ
3. 望ましい学校配置について
4. 傍聴者からの意見
5. その他

■発言要旨■

- (事務局発言) (北区基本計画2005(素案)で、平成17年からの10年間で9校を改築する計画が示されていることを説明)
- まず確認したいのだが。2校案に決定したわけではなく、2校案を前提にして議論を深めるということによろしいか。
- (事務局発言) 2校案を前提に議論を深めること、3校を閉校し、新たに2校を設置することについて確認済みである。今回は望ましい学校配置についてご検討いただきたい。
- 現在ある中学校の敷地しか使えないとすれば、岩淵中の位置は望ましいと思う。他の中学校の位置では、第四岩淵小の通学区域から遠くなる。
- 前回資料のB案(赤羽中+神谷中・岩淵中)が望ましいと思う。ただしこの地区全域の児童生徒数の分布を考慮して決めた方が良い。
- 今現在の児童生徒数や分布を把握しても、5~10年先には変わっていると思う。
- 現在の学区域は、何年前に決定されたものなのか。
- (事務局発言) 正確なところは不明だが、学校がつくられた時点では決定されていたと思う。

- どういう学校をつくるかが重要であって、その位置はどこでも良いのではないだろうか。ただこの中学校の敷地を使っても、校庭が狭いと思う。また学区域については撤廃しても良いのではないか。
- やはり新校には広い校庭と体育館があることが望ましい。また新校をつくる場合、何階建てまで可能か。
- (事務局発言) 建築基準法等の規制があるので確実なことは言えない。また学校だから特別扱いてくれるという規定はない。
- 校舎の中にプールや体育館を入れるなどの工夫で、校庭を広くするのは可能だと思う。
- 岩淵中は商業地域にあり、地域との関わりも密接である。よって岩淵中と神谷中の位置が望ましいと思われる。新築ということにもこだわりを持っていきたい。また先日新潟で大地震があったが、岩淵中、赤羽中は耐震補強をされていないので、大変心配している。なるべく早く子どもたちを、新しい安全な環境に通わせたい。
- 先ほど、平成17年から10年かけて、9校の改築を行うとの説明があったが、耐震補強されていない学校はその間手をつけないということか。
- (事務局発言) そのようなことはない。校舎の老朽化と見合いをしながら、適宜耐震補強を行っていく予定である。
- 学校数と位置だけ決めてどうするのかと感じている。まず学校の中身の議論をすべきではないか。学区域を乱暴に2つに分けても保護者は納得しないだろう。今回の協議会で2つの新校について決定しても、10年後の適正規模は1校になっているかもしれない。新校ができるのが5年後か10年後かわからない状態での議論は意味がない。
- 地図だけ見て区域を2つに分けた場合は、岩淵中と神谷中の位置になるのかなと思うが、やはりどういう学校をつくるのかが問題である。また実際に新校ができるのは10年ぐらい先になるのではないか。そのころ私たちの子どもはもう卒業している。
- 30年も50年も先のことは誰にもわからない。むしろ今の動きに乗って考えた方が良くと思う。他の地域の協議会の進捗状況も踏まえて、本地域も議論を前進させるべきだと思う。また学区域についてはなくしても良いと思う。望ましい配置については、岩淵中と神谷中の位置かと思う。
- 本心は、現在の3校の敷地から離れられないのが残念。この先100年ぐらいを見通して、もっと時間をかけて様々な角度から検討したい。時間がかかっても地域の支持が得られる結論を出したい。
- 新しい時代に対応した、素晴らしい学校をつくりたい。生徒数と学区域を柔軟に考えて、両校がバランス良く成り立つようにしてほしい。
- 私の想定では、仮に岩淵中と神谷中の位置になった場合、なでしこ小の児童はほとんどが岩淵中に行くと思う。2校つくって、同じ規模の生徒数にしようとしても、そうはならないと思う。中身や環境で勝負すべきではないか。年度末までに結果を出せというのは教育委員会の都合ではないか。ある一定の結論を出しても、中身のことも含めて来年度以降も議論を継続すべきである。みんなが良かったと思える結論を導き出せない協議会なら意味がないと思う。
- 以前から提案しているが、神谷小・神谷中・神谷公園を一体利用したらどうか。また岩淵中の位置に新校舎をつくり、赤羽中の位置にグラウンドをつくるという方法もある。1つの敷

地に校舎もプールも運動場もと考えるから無理が生じる。部活は2校共同で行っても良いのではないか。

- 現実的には岩淵中、神谷中の2校の位置かと思うが、むりやり結論を出すよりも、あえて結論を出さないのも英断かと思う。適正規模等審議会の議論は、小さい学校をどう支えるかだった。サブファミリーの充実策に論議を移していくのも手だろう。
- (事務局発言) 本日は望ましい学校配置についてご検討いただきたいと思っている。まず理想の学校像を考えるべきとのご意見も出ているが、他の地区の例を見ると、望ましい学校配置の前に学校像について考えている地区は、残念ながら理想が形にならない状況である。そのような例から考えると、まず望ましい学校数が2つ、配置はどこにするかを決めたくて議論を進めた方が良いのではないかと思う。それでも学校の中身から決めるべきというのが協議会のスタンスであれば、事務局として否定するものではない。
- 協議のペースは、時間をかけるべきものと、急いで議論するものを分けて考えた方が良い。もし新校建設に順番があるならば、本地区も早く結論を出した方が得策ではないか。
- (事務局発言) 早いもの順ではないし、議論がまとまらないものも待てない。
- 他の地区の進行状況を知りたい。その方が議論を進めやすい。
- (事務局発言) (他の地区協議会の進捗状況について説明)
- 他の地区では議論がずいぶん進んでいるようだ。
- では本地区では学校配置はどうすべきか。
- 今までの議論の流れから言うと岩淵中と神谷中の位置ではないか。学区域はなくして、自転車通学も認めたら良い。
- (事務局発言) 先程から学区域についての話しが出ているが、自由選択制を採用している他区においても、様々な条件付きで自由選択制となっていることを述べておきたい。
- 新校建設については早いもの順ではないとのことだが、議論の進んでいる地域から着着と実施されていくように感じられる。本地区においては様々な決定が遅すぎるのではないかと危惧している。

## 赤羽東地区教育環境整備協議会・幹事会(第7回)

■平成16年12月6日

■赤羽会館第2集会室

■次第■

1. あいさつ
2. 第6回幹事会のまとめ
3. 望ましい学校配置について
4. その他

## ■発言要旨■

- 前回の幹事会において、北区基本計画2005(素案)で、平成17年からの10年間で9校を改築する計画であることが示されたが、西浮間小の移設、王子小と桜田小の統合、王子中と桜田中の統合についてはこの9校に含まれるのか。
- (事務局発言) 王子小と桜田小の統合校、王子中と桜田中の統合校については、9校中の2校である。西浮間小も決まれば、もう1校となる。
- 赤羽東地区に新しい学校をつくれる望みはあるのか。
- (事務局発言) 協議会で望ましい学校配置と時期が決まれば、最大限の努力をしたい。
- 改築校の数について、仮に西浮間小も9校中に含めるとなると、残りは6校となり、協議会を進めているのは6地区ということになる。そのような状況の中で赤羽東地区は現在2校案で検討しているが、実際に2校つくれるのか。6地区で6校なので1校案で議論すべきか。皆の意見を聞きたい。
- 事務局はこの協議会での決定を踏まえて最大限の努力をしようとしているのだから、2校の望ましい配置について決定すべきではないか。
- 確かにそうだが、仮に2校の配置を決定しても、赤羽中と岩淵中は耐震補強工事のめどがたっていないし、改築のための予算が来るまでに10年以上かかる可能性もある。そういうことも考慮すべきではないか。
- その意見は確かに大事だが、今時間をかけるべきことではないと思う。実際に王子地区では2校つくる案が採用された。赤羽東地区も2校つくってほしいというのが希望である。先の意見は2校つくるという前提のもとで、2校案で決定してよいか確認したいという趣旨かと思う。
- 仮に他の地区で結論が出なかった場合、改築予算があまることになるのか。それとも行政側で一方的に統廃合について決定するのかがわからない。またこの地区において2校案で決定した場合、他の地区と合わせて6校以内にならなければ、今までの議論がすべて無駄になるのか。
- (事務局発言) 以前から説明しているとおりに、確約をした上での適正配置というものではない。1地区に1校と約束されたものでもない。また、適正配置や改築予定校が決まらない場合、座視して待つことはない。2年間協議を続けてきて、意見のまとまらなかった地区については、行政内で整理する時間をいただきたい。
- 個人的には、岩淵中が古くて大きいということを考慮すれば、まず岩淵中を改築すべきかと思う。
- 2校をつくるという結論を出しても、結果として1校になるかもしれない。しかし、1校しかつからないと決定した場合は2校に増えることはないと思う。適正なスピード・タイミングで結論にもっていくべきだろう。
- 参考意見だが、大日本印刷が2013年に移転し土地が空くという話もあるようだ。よって、急いで決める必要はないと思う。長いスパンで見れば違う案も出てくる。
- 空き地になった時に、そこを買う予算があるかどうかは分からない。現実的には2校案で進めるべきだ。

- 2校案で決める場合は、2校とも耐震補強をしてほしい。子どもたちの安全が一番の願いだ。
- 以前にも質問したが、耐震工事をしてから何年の間に改築すると、補助金を返さねばならないのか。
- (事務局発言) 10年とお答えしたが、国の考え方も変化しつつある。統合による改築の場合は、補助金の返還が生じないことになったが、三位一体の改革とのからみもあり、まだ不透明な状態である。
- (座長が、2校の位置と、それぞれの長所、課題について委員に発言を求める。)
- いまさら考える必要はないと思う。この協議会の中では、岩淵中と神谷中の位置しかないと皆考えている。
- しかし、全体会での説明のためにも確認しておくべきだろう。
- 赤羽中と岩淵中の位置の場合、長所より課題の方が多い。両校の位置が近すぎることで、両校とも耐震補強が必要なことなどが課題としてあげられる。
- 長所はないように思われる。
- あえて長所をあげるのなら、両校の位置が近いために、スポーツ等での学校間交流がしやすいとは言える。一方を校舎として使い、もう一方をグラウンドとして使っても良いのではないか。
- 岩淵中と神谷中の位置の場合、課題は神谷中の狭さと、岩淵中が商店街の中にあることである。
- 長所についても、配置バランスがとれているとは思えない。
- 相対的に考えれば、配置バランスがとれていると言えるのではないか。
- 赤羽中と神谷中の位置の場合、長所は考えられない。
- (事務局発言) では、本日の議論のまとめとして赤羽東地区の幹事会としては、望ましい学校配置は岩淵中と神谷中の位置に絞られたと考えてよいか。
- これはあくまで我々が、行政側からもらっている前提にもとづいて出した結論だということを、はっきりさせておいていただきたい。
- 第1回目の幹事会からの要旨をまとめて、こういう前提でこういう結論になったのだと示していただきたい。
- (事務局発言) それでは本日いただいたご意見と、第1回目の幹事会からの要旨をまとめたものを年内にお送りしたい。それについてご意見をいただき、その結果を持って全体会を開きたいと考える。

## 赤羽東地区教育環境整備協議会(第3回)

■平成17年1月27日

■赤羽文化センター視聴覚室

■次第■

1. あいさつ
2. 経過報告
3. その他

■発言要旨■

- (座長) はじめに、今日が最後の協議会となるが、幹事会の委員をはじめ、協議会の委員の方々など、これまで熱心にご議論をいただいた皆様に感謝申し上げたい。  
さて、これまで幹事会でさまざま検討を重ねてきた結果、現在の赤羽中学校、岩淵中学校、神谷中学校の3校を閉校し、新たに2校を再配置する。また、その新たな2校は、現在の岩淵中学校と神谷中学校の位置に配置することが望ましいということが方向づけられた。それでは、これまでの経過報告について、事務局より報告する。
- (事務局発言) 本日、席上配布した資料は、幹事会での方向性について、この全体会での了承後、検討報告書が協議会としての方針となる案文である。それでは、「赤羽東地区教育環境整備協議会 検討報告書(案)」について、説明する。協議会方針として、(1)赤羽中学校、岩淵中学校、神谷中学校の3校を閉校し、新たに2校を再配置する。(2)新たな2校は、現在の岩淵中学校と神谷中学校の位置に配置することが望ましい。ただし、適正配置の望ましい実施時期については、一定の方向づけに至っていない ということを書き加えている。  
平成16年3月の全体会以降の検討経過について、6月21日には、第4回幹事会を開催し、1校及び2校とした場合の長所や課題など、望ましい学校数についての議論が重ねられた。2校案中心で議論を進めていくべきではないかという意見もあった。第5回幹事会を8月3日に開催し、(1)2校案を前提に検討を深める。(2)3校とも閉校し、新たな2校を設置する。という2点が幹事会で確認されたところである。10月26日に第6回幹事会、12月6日に第7回幹事会を開催して、望ましい学校配置について検討を重ね、幹事会としては、「3校を閉校し、校舎も校名も新たなものとした学校を2校設置するのであれば、現在のところ、岩淵中と神谷中の位置が最も望ましい」という方向が確認されたところである。この全体会で了承されれば、協議会としての方向づけとなる。
- 教育内容をよくすれば、通学距離などは問題とならないのではないかと。
- (事務局発言) ご意見のとおり、教育内容を充実させていくことが何よりも肝要であると思っている。ただし、通学距離については、地域の中ではぐくまれる区立学校として、中学校の場合、1.5キロメートルが適正な通学距離の目安としている。
- (座長) この方向について、了承されたということによいか。

- (了承)
- (事務局発言) それでは、ご了承をいただいたということで、協議会だよりを発行するが、すぐに統合するのかなという風評が流れる懸念があるので、再配置の時期については、一定の方向づけに至っていないことを書き加えることとする。
- 協議会方針が確認された上で、事務局に聞きたい。学校数と位置について確認されたが、それだけなら教育委員会で決定してもよいのではないか。わざわざ協議会を開催する必要はないのではないかということ。また、今後、どのように進めていくのか。
- (事務局発言) 教育委員会として、8地区の協議会での方向をまとめ、行政内部で検討を行う。その後の検討方法として、協議会を再開して望ましい時期について検討するのか、教育委員会で示していくのか、まだ未定である。
- 学校の数や配置だけを決めることだけではなく、教育内容の論議が大切であるということが総意であると思われる。これですべて終わったわけではないので、このことを踏まえてこれからの検討期間中も子どもたちは通学するのだから、さまざまな現状に対応できるように希望する。
- 適正配置の実施時期について、岩淵中、赤羽中はともに耐震工事をしていないこともあり、早急に検討をしてほしい。平成17年度中に実施時期や教育内容について検討していきたい。その際、この協議をしてきたメンバーで話を進めることが望ましい。
- (事務局発言) 教育内容の議論については、教育委員会では教育ビジョンの改定を行い、教育内容の充実に向け、検討を行っている。また、地域運営学校という地域が学校運営に参画するという新しい動きもあり、教育内容の議論の俎上にのぼってくるだろうと思われる。
- 実施時期について、一定の結論に至っていないとのことだが、平成17年からの10年間で9校を改築予定の基本計画の中に組み込まれるようにしたほうがよいのではないか。
- 方向が示せたといってもこれは取っ掛かりである。協議会では具体的な検討がされていないので、ここまできた方向性を具体的な形で進めてほしい。
- 今回、幹事会で方向性が確認されたけれど、出席者が少なかったことが残念である。
- 時間をかけた割にはあまり議論が進まなかった。再配置をするために新しい土地を利用して議論を進めるのではなく、既存の土地を利用するというのが残念である。また、保護者も教育に関心が薄いことはとても残念なことであると思う。この協議会ではこのような方針が確認されたところだが、できれば早い時期に協議会を再開して先に議論を進めたい。
- 最も早く統合実施を行う王子地区でも新しい学校ができるのが平成21年度であると聞いている。そのようなことを考えると学校の改築期間が十分あるので、その期間中に望ましい教育環境につながるような議論をしてほしい。
- 出席者が少ないという意見があったが、全体会のメンバーに参考ということで幹事会の開催通知をもらっている。しかし、幹事会に出席しても意見が言えないので、それなら欠席してしまおうということなのだと思う。
- うわさだけが先行していることもあるので、PTAとして、どのように保護者へ話をしていたらいいのかが課題である。
- 子どもにとって、よい学校としてほしいということが大きな願いである。

- （事務局発言）地域の皆さんには重い課題に対する議論をお願いしている。子どもたちのために一定規模の学校の必要性については理解していても、なかなか具体的なこととなると進まない。各地区協議会での結果をまとめ、議会へ報告した後、各地区の結果を踏まえ、これまでの協議会での議論をできる限り尊重して、行政内部で検討する時間をいただく。そのうえで、皆さんと相談したいと思っている。協議会において熱心にご議論いただいたこと、心より感謝申し上げたい。